

C-ENGINE 研究インターンシップ in 三菱重工 総合研究所

富永 駿介

はじめに

2025 年の 9 月~10 月に私は C-ENGINE という産学連携システムを利用し、三菱重工業(株) 総合研究所 流体第一研究室(長崎地区)のインターンシップに参加していました。なかなか面白く、珍しい経験であったと思うのでここに記録を残させていただきます。



C-ENGINE とは

そもそも C-ENGINE とは何ぞや?と、思う方がいるので簡単に説明させていただきます。通常のインターンシップは企業がリクルートのために実施するものであるのに対し、本システムは大学と企業が連携し、企業で学生が研究活動を行うことを主にしたインターンシップのシステムとなります。特徴としては”研究活動”を主とするためインターンシップが長期であることと、大学側がインターンシップ先を選定してくれることにあります。また、それらの特徴に加え、自分でインターンシップテーマを提案できるということもあります。

参加するまでの流れ

修士になりたての頃に C-ENGINE の説明会が開かれており、私はそこではじめてこのシステムの存在を知りました。夏に用事があり(詳細は海外研修のページを参照)通常の企業インターンシップに参加できない私は、インターンシップ時期を自由に設定できるこのシステムを知り「これだ!」と思いすぐに応募しました。そこからは、自分がどんな研究を

してみたいかを記した ES の提出、インターンコーディネーターの方との面談、企業との面談と続き、実際に長崎でインターンを行う流れとなりました。インターンシップが決定するまでのスケジュール感については下の図 1 を参照ください。

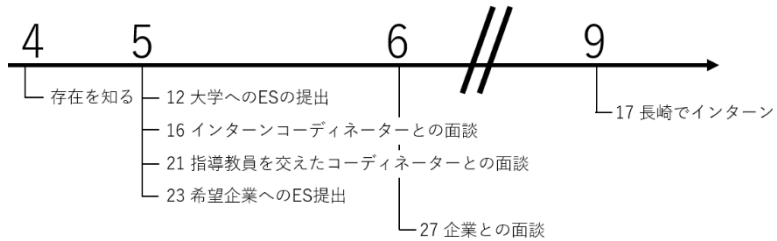


図 1:おおよその日程

インターンシップのテーマについて

初めに企業から通常のインターンのようにテーマを提案してもらおうのですが、私はピンとくるテーマがなかったため自分でテーマを提案することになりました。企業の方とも相談し、決定した研究テーマは「船舶における脱炭素技術の調査及びそれらのビジネスモデル提案」です。

総合研究所について

三菱重工業 総合研究所は三菱重工グループの”すべての製品”に関する研究を行っており、その長崎地区の総合研究所もまた多くの実験施設を保有する巨大研究所でした。巨大実験水槽や CO₂ 回収実験棟、巨大燃焼炉などいくつか実験施設を見学させてもらいましたが、あれは一見の価値があると思います。研究所というと、白衣に身を包み堅苦しいイメージがあるように感じますが、図 2 のよ

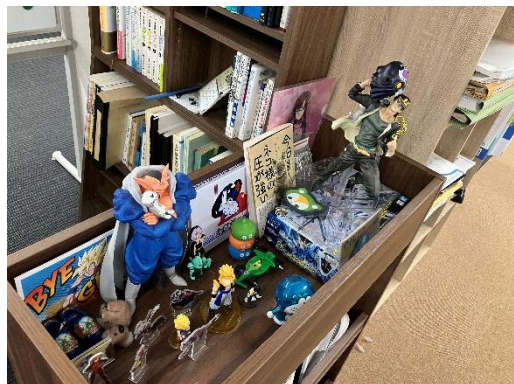


図 2:研究所の一角

うにほっこりする場所もあり明るい感じでした(いろんな意味で)。

インターンのまとめについて

総合研究所は防衛にかかわる分野も多く、おいそれと学生が参加できるものはほとんどありません。そのため The 研究というより資料学習的な面が大きかったですが、得た情報を吟味する際に様々な分野のプロフェッショナルの方々からコメントがいただけるため、視野の広がりという点で大きく成長できたと感じます。

さいごに

研究インターンシップに参加させていただきましたが、こんな人に参加することをお勧めします。

1. 企業の研究を知りたい
2. インターンの時期を自分で決めたい
3. 短期間で成長したい
4. 特別な経験を積みたい

大学・企業の方が参加者を全力でサポートして下さるので、安心してぜひチャレンジしてみてください!